

出演者プロフィール



■指揮者：松川 智哉（第1クール）

東京藝術大学音楽学部指揮科卒業、同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程修了。2019～2021年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員。2022～2024年セントラル愛知交響楽団アソシエイトコンダクター。これまで東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、藝大フィルハーモニア管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、富士山静岡交響楽団、セントラル愛知交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団他と共に演。現在オーケストラやオペラなどで幅広く活動している。愛知県立芸術大学非常勤講師。

©Shigeto IMURA



■指揮者：小林 雄太（第2クール）

新潟県長岡市生まれ。給費奨学生として東京音楽大学指揮科に入学。指揮を廣上淳一、下野竜也ら各氏に師事。大学卒業と同時に紀尾井ホール室内管弦楽団指揮研究員。これまでに神奈川フィルハーモニー管弦楽団、横浜シンフォニエッタ、東京フィルハーモニー交響楽団、東京混声合唱団等を指揮。テレビ朝日「題名のない音楽会」等のメディアにも出演。2021年4月より2024年3月まで京都市ジュニアオーケストラ合奏指導者。2022年10月、神奈川フィルハーモニー管弦楽団副指揮者に就任。第58回ブザンソン国際指揮者コンクール本選などに招待された。

©Fukaya/auraY2



■指揮者：神成 大輝（第3クール）

茨城県生まれ。幼少よりピアノを学び、また、市川学園オーケストラ部でファゴットを始めたことをきっかけに音楽の道を志す。14歳から指揮を始める。東京藝術大学音楽学部指揮科および同大学院を首席で卒業・修了し、安宅賞、同声会賞等を受賞。新卒業生紹介演奏会に選出され、シベリウスの交響曲第7番を演奏。これまでに松浦修、松尾葉子、高関健、山下一史の各氏に師事。2023年9月から2025年8月まで仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者を務め、任期中に様々な演奏会で指揮者として出演した。

協賛企業

心の教育ふれあいコンサートは、次の方々に御協賛いただいております。



OKAMURA

公益財団法人 理想教育財団
RISO EDUCATIONAL FOUNDATION株矢野建築設計事務所
YANO Architect&Associates C/O

CUP NOODLES MUSEUM

muRata



日程
第1クール 9月29日(月)、30日(火)、10月1日(水)
第2クール 10月6日(月)、7日(火)、8日(水)、9日(木)
第3クール 11月17日(月)、18日(火)、19日(水)

会場
横浜みなとみらいホール 大ホール

時間
第1回公演（午前の部） 10:30から
第2回公演（午後の部） 13:30から

指揮
松川 智哉（第1クール）、小林 雄太（第2クール）、神成 大輝（第3クール）

演奏
管弦楽／神奈川フィルハーモニー管弦楽団
バイオリン／尾崎 麻衣子（第1クール）、近藤 岳（第2クール）、新田 朝香（第3クール）

司会
岩崎 里衣

主催
横浜市教育委員会

共催
横浜みなとみらいホール（公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団）

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

1970年に神奈川県を本拠地とする唯一のプロ・オーケストラとして発足。地域に密着した音楽文化の創造をミッションとして、神奈川県全域をはじめ、全国各地で幅広い活動を続けている。1978年に一般財団法人、2014年には公益財団法人として認定されている。

横浜・川崎を中心とする定期演奏会や特別演奏会、県内各地を回る巡回公演などの主催公演を開催。音楽教育にも積極的で、小中学校での音楽鑑賞教室を全国各地で開催し、広い世代に音楽の魅力を伝え、また医療機関や特別支援学校への出張演奏も行っている。1989年神奈川文化賞、2007年NHK地域放送文化賞、横浜文化賞、2022年地域文化功労者表彰をそれぞれ受賞。

2020年には創団50周年を迎える。現在、指揮者陣には、音楽監督に沼尻竜典、名誉指揮者に現田茂夫、特別客演指揮者に小泉和裕を擁し、人気・実力ともに益々注目されているオーケストラである。



撮影：藤本史昭

プログラム

- 交響詩「ツアラトゥストラはかく語りき」より 冒頭 R. シュトラウス
- ポルカ「雷鳴と稻妻」 J. シュトラウスⅡ世
- 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」K.525 より 第1楽章 W.A. モーツアルト
- バレエ「くるみ割り人形」より 花のワルツ P. チャイコフスキイ
- 小フーガ ト短調 BWV578 J.S. バッハ
- ハンガリー舞曲 第5番 J. ブラームス
- 行進曲「威風堂々」第1番 E. エルガー

♪ 交響詩「ツアラトゥストラはかく語りき」より 冒頭 R. シュトラウス

リヒャルト・シュトラウス（ドイツ 1864～1949）は、ヨーロッパで最も有名な作曲家の一人です。華麗な響きの交響詩やオペラなどの作品が特に有名です。この曲は、物語や情景などをオーケストラによって表現する交響詩と呼ばれるもの一つで、哲学者・ニーチェの作品が元になっています。全曲を演奏すると30分以上かかりますが、今日演奏される冒頭部分は、映画等を通じて聴いたことがあるのではないかでしょうか。大編成のオーケストラとオルガンの壮大な響きが、みなさんを包みこんでくれることでしょう。

♪ ポルカ「雷鳴と稻妻」 J. シュトラウスⅡ世

ヨハン・シュトラウスⅡ世（オーストリア 1825～1899）は、多くのポルカ（速い2拍子系の踊りのリズム）を作曲していますが、その中でもこの曲は大変有名です。打楽器が活躍する「雷鳴と稻妻」は太鼓で雷鳴を、シンバルで稻妻を表しています。3つの部分でできていますが、中間の部分では雷鳴と稻妻が交互に激しく鳴り響きます。

♪ 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」K.525 より 第1楽章 W.A. モーツアルト

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト（オーストリア 1756～1791）は、35年という短い生涯の間に600曲に及ぶ作品を残しています。この曲は特に有名で、親しみやすい旋律と、軽やかかつ生き生きとした美しさで、多くの人々から愛されています。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」とは「小夜曲」（セレナード）とも訳される、弦楽器のための楽曲です。4つの楽章とも、魅力的に活気に満ちあふれています。今日は第1楽章のみの演奏ですが、ぜひ全曲を通して聴いてほしい作品です。

♪ バレエ「くるみ割り人形」より 花のワルツ P. チャイコフスキイ

ピョートル・チャイコフスキイ（ロシア 1840～1893）は、有名なバレエ音楽「白鳥の湖」や「眠れる森の美女」を作曲していますが、今回は同じバレエ音楽の「くるみ割り人形」から「花のワルツ」を鑑賞します。くるみ割り人形とは、人形の形をしたクルミを割る道具のことです。クリスマスの夜、主人公のクララが、ネズミと戦って負けそうになったくるみ割り人形を助けると、人形は王子に変身し、お菓子の国へ誘ってくれます。この曲は、コンペイトウの精の侍女24名が、華やかな踊りを披露する場面で、ハープが効果的に用いられたり、美しい旋律が様々な楽器に受けわたされたりしながら曲が進みます。



♪ 小フーガ ト短調 BWV578 J.S. バッハ

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（ドイツ 1685～1750）は、生涯に200曲以上のオルガン作品を残しました。この曲は、みなさんもどこかで聴いたことがあるのではないかでしょうか。フーガは、始めに示された旋律が、複数の声部に次々に現れるという特徴があります。今日は、パイプオルガンの豊かな響きとともに、次々に旋律が重なっていくおもしろさ、美しさを感じ取りましょう。

♪ ハンガリー舞曲 第5番 J. ブラームス

ヨハネス・ブラームス（ドイツ 1833～1897）は、演奏旅行中に耳にしたハンガリーのロマの民族音楽を楽譜に書き留め、21曲の舞曲集をつくりあげました。もともとハンガリー舞曲はピアノ連弾（1台のピアノを2人で弾く）曲でしたが、後にさまざまな音楽家によってオーケストラに編曲されています。曲中の速度のゆれや急激な速度の変化、調の変化などが起こす効果を味わってみましょう。

♪ 行進曲「威風堂々」第1番 E. エルガー

エドワード・エルガー（イギリス 1857～1934）の代表作の一つです。「威風堂々」とは、光を放つようなおぞかで堂々としている様子を指します。この曲をロンドンで初めて演奏したとき、会場は、大きく響き渡る拍手でいっぱいになり、熱狂する人々のために3回も繰り返し演奏したそうです。この曲を聴いたイギリス国王エドワード7世も大変気に入り、親しみやすいメロディーに歌詞をつけることをすすめました。それが「希望と栄光の国」という曲に編曲され、今でもイギリス第2の国歌と呼ばれるくらいに人々に愛され歌われています。

出演者プロフィール



■パイプオルガン：
尾崎 麻衣子
(第1クール)



■パイプオルガン：
近藤 岳
(第2クール)



■パイプオルガン：
新田 朝香
(第3クール)

航空保安大学校を経て航空管制官として勤務する中、偶然出会ったパイプオルガンに魅了され、同職退職後、東京藝術大学へ進学。徳岡めぐみに師事し、2020年音楽学部オルガン専攻卒業、2025年同大学院修士課程修了、大学院アカンサス音楽賞、大学院アカンサス音楽賞受賞。モーニングコンサートにて藝大フィルハーモニア管弦楽団と共に演。2022年からドイツのヨハネス・グーテンベルク大学附属マイント音楽大学でゲルハルト・グナンに師事、オルガン専攻修士課程を最優秀の成績で修了。ドイツ、オランダ、イタリアでマスタークラスや個人レッスンを受講、フルダ大聖堂やフライブルク大聖堂など各地で演奏活動を行ってきた。（一社）日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。2025年度横浜みなとみらいホール オルガニスト・インターンシップ・プログラム第21期生。

東京都出身。国立音楽が医学附属高等学校オルガン科を経て、同大学および大学院オルガン専攻を修了。大学卒業時に武岡賞、大学院修了時に最優秀賞（鍵盤楽器）を受賞。明治安田オリティオブライフ文化財団音楽学生奨学生（2023・2024年度）。第109回国立音楽大学ソロ・室内楽演奏会、第50回国日本オルガニストとの共演も多数経験。これまでにオルガンを青田絹江、近藤岳の各氏に、ピアノを琴あや、星野安彦、宮下ゆかりの各氏に師事。（一社）日本オルガニスト協会会員。2025年度横浜みなとみらいホール オルガニスト・インターンシップ・プログラム第21期生。